

---

## 千野栄一先生（と）のこと

堤 正 典

千野栄一先生が2002年3月19日に亡くなられた。  
私は千野先生の弟子というわけではなく、単なる  
受講生にすぎないが、大学院修了後は就職につい

てもご心配いただき、神奈川大学に就職が決まっ  
たときも大変喜んでいただいた。先生にまつわる  
私の記憶の断片を書かせていただこうと思う。

私は日本などが参加しなかったモスクワ五輪の1980年に東京外国語大学ロシア語学科に入学した。その中身をキチンとは知らなかったがなんとなく言語学に興味をもっていたので、大学にはいると多数用意されていた言語学関連の授業に出席した。千野先生の授業は言語学（教養科目）・言語学概論・言語学演習・チェコ語・古代スラヴ語、さらに大学院での言語学と毎年出席させていただいた。ただし、学部での3年生の時は先生の在外研究のため授業がなかった。千野先生は私のいた学科の先輩でもあるが、学科の教員ではなく、各学科が共通で受講する科目を担当されていた。いくつもの授業に出させていただき（言語学と言語学概論には4年生の時も出た）、だいたい上に挙げた順に受講生も少なくなる。いつしか顔と名前をおぼえていただいた。もっとも「堤君みたいに、あるようでなく、ないようである名字はおぼえやすい」というようなことをおっしゃっていたので、それも幸いしたのであろう。千野先生の授業で一緒になる他学科の学生は他の言語学関連の授業でも一緒のことが多く、言語学をとりもつ友人・知人も増えた。その中には大学の教員になったものも少なくなく、今でもつき合いは続いている。

私はソ連が崩壊する91年に代官山のあるレストランで人前結婚式をした。図々しくも千野先生にご出席いただきスピーチまでしていただいた。先生には「堤君はまだ大学に就職していないが、数年のうちにそれが実現するでしょう」とおっしゃっていただき、そのとおり神奈川大学に拾われたのである。その翌日大学の廊下でお目にかかり、式の後には同じく出席していただいたI先生と少し飲んで帰ったとうかがった。千野先生によれば「I君がまだ飲みたそうだったから」であるが、I先生は「千野先生が飲みたそうだったから」とおっしゃっている。（いずれにしても十分に召し上がっていただけなかったことを申し訳なく思う次第である。）

私は以後4回引越したが、たまたまいずれも先生のお宅の近隣地域であった。街なかや電車でお会いすることがたびたびあった。双方とも自転車のまえに子供を乗せ、それぞれ送っていくところであったり、駅のホームで電車を待っていると

ころであったりした。何かの集まりの帰りを一緒にさせていただいたこともあった。子供の保育園のことで区の支所に行き、その自転車置き場でお目にかかったこともあった。先生も私と同じ用件でいらしかったのだった。和光大学に移られ、学長就任という話を聞いたばかりの頃、京王線の明大前のホームで偶然お会いし、「先生、またお忙しくなるんですね」と申し上げると「選ばれちゃってね」と苦笑なさっていた。府中に移った東京外語での西スラヴ学研究会の会合のあと、帰りの電車をご一緒したが、そのとき和光大学の卒業生で他の大学の大学院で心理学を専攻しているという学生が話しかけてきて、先生に今の状況を熱心に報告したことがあった。さほど知っている学生でもなかったようだが、先生は丁寧に応答なさっていた。最後にお見かけしたのも電車であった。昨年の12月くらいだと思う。私は通勤で一週間だけ小田急線の急行に乗る。下車するとき同じ車両に千野先生が乗っていらっしゃるのに気がついた。乗り換えのため、ご挨拶ができなかった。一緒にいらした背の高い方が上の息子さんだと後でわかった。

神大の授業ではゼミや基礎ゼミで千野先生のご著書を使わせていただいた。基礎ゼミで『外国語上達法』を使ったが、この本が読み終わっての討論で、台湾から留学してきている男子学生の発言から「この本に留学のことも一章あるとよかった」（無い物ねだりではあるが）と思うようになった。先生は長いプラハでの留学経験をおもちである。留学についてもきっと我々に有益なお話をして下さるに違いない。機会があれば神大に講演に来ていただこうと決めていた。和光大学学長の任にあったのでとてもお忙しいだろうなどと考えたのはあさはかであった。結婚式のスピーチのように図々しくお願いしてみればよかった。「長い長い留学の話」なんてタイトルはどうだろうか。

先生の言語学はプラハの機能言語学がその土台である。機能主義は形式主義的な生成文法とは基本的な考え方が全く異なるものである（もちろん機能主義にもいろいろあり、プラハの機能言語学が日本に紹介されつくしているとは言えない。）しかし、千野先生の授業に出てきたプラハ言語学

流の類型論の考え方は、後に読んだ生成文法の比較統語論の論文のいくつかにも見うけられた。言語学における機能主義と形式主義とはもっともつとお互いを知るべきなのだ。先生は生成文法には否定的な見解をおもちであったが、その先生から

機能主義を言語に対する当然のアプローチとして教えられた一学生はこのように思うのである。先生のおっしゃったことを理解していないからではなく、理解したからこそだと私は勝手に信じている。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX